

# 日本ミシェル・アンリ哲学会

## 第六回研究大会 プログラム

日本ミシェル・アンリ哲学会の第六回研究大会を下記の通り開催いたします。

今回のシンポジウムのテーマは「アンリとスピノザ」です。アンリの著作の中でスピノザへの言及は多いとは言えませんが、彼の最初期の仕事はスピノザ論であり、また、その最晩年にはスピノザへの密かな回帰を見せています。アンリにとって、スピノザは、その出発点であると共にその到達点であると言えるでしょう。二人の特異な哲学者、アンリとスピノザの謎めいた関係を解きほぐすことは、両者の哲学に対して、これまでにない新しい光を当てることになるでしょう。今回は、パネラーとして、スピノザ、マルブランシュ、デカルトをはじめとする17世紀哲学と、アンリ、ドゥルーズなど20世紀哲学を専門とする鈴木泉氏、スピノザ研究の第一人者であり、アンリの『精神分析の系譜』の訳者の一人でもある上野修氏、そして、レヴィナスの翻訳者として知られており、スピノザとユダヤ思想にも造詣の深い合田正人氏をお招きし、ご提題いただきます。

今大会ではさらに、一般発表が二つ行なわれます。一つは、自己の内なる〈生〉への受動性という点にアンリの哲学の独自性を見て取り、その暴力性と時間性という観点からアンリ的な受動性概念の究明を試みようとする本間義啓氏の発表です。もう一つは、アンリをハイデガーと対比させつつ、とりわけ両者の芸術論と言語論の比較検討を通して、アンリの生の現象学の可能性を明らかにしようとする川瀬雅也氏の発表です。

本学会の研究大会は会員以外の方も参加自由です(無料)。アンリや哲学・現代思想に興味をお持ちの方はどうぞお気軽にご参加ください。また大会終了後には懇親会も予定しております(有料)。

期日：2014年6月15日（日）

会場：成城大学 7号館 2階 723教室

### 【総会】

11:30~12:00 総会  
12:00~12:50 昼食

### 【研究発表】

13:00~13:50  
本間義啓（成城大学）  
「〈生〉の暴力と時間性——アンリにおける受動性の概念について」  
13:50~14:40  
川瀬雅也（島根大学）  
「アンリとハイデガーにおける存在と言葉」

### 【シンポジウム】

14:50~18:00  
テーマ：「アンリとスピノザ」  
パネラー  
鈴木泉（東京大学）（司会）  
「個体と汎神論——アンリにおけるスピノザ／ライプニッツ問題」  
上野修（大阪大学）  
「身体の真理としての魂——アンリとスピノザ」  
合田正人（明治大学）  
「『現出の本質』におけるスピノザの蝕と同書のレヴィナスへの作用の相関をめぐって(仮)」

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学教育学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0852-32-6284 E-mail : kawase@edu.shimane-u.ac.jp

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>